

## 平成28年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人純正福祉会 青葉はるまち保育所

### 評価項目の達成・取組状況・これから改善したいこと

| 評価項目                       | 取組状況   |
|----------------------------|--|
| I 保育の計画性                   | 保育園の保育課程を充分理解した上で、子ども一人ひとりに合った個人計画が立てられるように、学年別年間計画や月週間計画を丁寧に立て日々の保育に活かした。また、評価・反省を分析して見直しを持った保育を心掛けた。主体的な活動が出来る環境の中、集団での自己発揮、自己表現を大切にしている。  |
| II 保育の在り方 幼児への対応           | 子どもの個性や特性、家庭環境などを理解・把握した上でありのままを受け入れながらも、成長発達に繋がるような個人的接し方を重視した。子ども同士の仲間関係にも注目し、協同活動や個人活動の意欲や達成感に繋がるような環境の中、子どもの気持ちを汲み取りながら日々援助した。   |
| III 保育者としての資質や能力・良識・適性     | 保育の意義や大人の連携を充分理解し、子どもの生活保育が円滑に行われるように協力し保育を深めるようにした。幼い子どもたちと直接携わる保育者としての人間性の良識を常に念頭におき、日々の保育に務めていた。保護者との対応に必要な接遇や傾聴する姿勢を重視し、安心して預けられるような雰囲気作りに留意した。  |
| IV 保護者への対応・守秘義務            | 保育園の送迎時に子どもの様子を伝え、子育てや就労で忙しくしている日々の生活を支えながら、子どもの育ちを楽しみにしている保護者の気持ちに配慮している。家庭での生活背景や日課を理解しながらも、子どもにとって適切な生活が過ごせるよう、細やかな配慮を持って信頼関係を深めている。  |
| V 地域の自然や社会とのかかわり           | 地域の公園や子ども広場では、戸外遊びとゴミ拾いを兼ねて利用している。また、地域の秋祭りには、3・4・5歳児が参加して踊りを踊ったり、5歳児がお店を出して数の概念や店の仕組みを知る体験をしている。<br>地域の方より門松の作り方を披露してもらい、日本古来の伝習を子どもたちに伝えてもらう交流の機会があり、門松への意識を高めた。                                     |
| VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度 | 保育の質の向上のために園内研修や自主研修、その他の研修などを通して自己研鑽と保育のスキルアップを高めるようにしている。又、研修での学びを園内で報告し合い、学びや共通認識に必要な内容を伝え合うようにした。<br>また、専門書やビデオ、ロールプレーなどの園内での勉強会など、専門性を高める機会を深めたり、嘱託職員やパート職員にも保育の意味合いを理解するための勉強会を数回行い、園全体でも意識を深めた。 |
| VII 保育の在り方、3歳未満児への対応       | 応答的保育を実践し、子どもたちの心のよりどころとして、子どもの要求や欲求を充分理解して、適切に対応するように努めている。乳幼児という重要な発達過程の中で、一人ひとりの発達課題を個人記録や生活形成計画に基づいて見直しを持ちながら保育している。また、健康管理や安全管理は、保護者との受け入れ時に視診・触診や家庭からの連絡を承知して確認することに努めた。                         |
| VIII 地域における子育て支援           | 月2~3回の公開保育や地域の公民館での親子サロンに参加し、地域の方と触れ合い、子育てのアイデアや簡単な遊具作り、絵本紹介を兼ねての絵本の読み聞かせなども行った。また、地域の秋祭りでの地域の方々と一緒に活動したり、戸外保育で利用している公園の除草作業に参加して、子育て支援を行っている。   |

